

< あなたの治療について >

消・外 - Nivo /Ipili - HCC - q3w

今回の治療は、Nivo /Ipili という治療法で、オプジーボ（NIV）とヤーボイ（IPI）という2種類の注射薬を併用して行います。オプジーボ、ヤーボイは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに4コース繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～21日目
①	オプジーボ (抗がん剤) 80mg/body	点滴 約30分		お休み
	30分以上、間隔をあけます。			
②	ヤーボイ (抗がん剤) 3mg/kg	点滴 約30分		

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

オプジーボ、ヤーボイによる

●疲労 ●そう痒症

◎特徴的な副作用について

オプジーボにおける

* 免疫チェックポイント阻害剤における副作用は、別添の資料を参照して下さい。

ヤーボイにおける

* 免疫チェックポイント阻害剤における副作用は、別添の資料を参照して下さい。

* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【オブジーボ】

〔間質性肺疾患〕発熱、から咳、呼吸困難

〔重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症〕筋力低下、眼瞼下垂、呼吸困難、嚥下障害、筋肉の痛み、動悸、胸痛

〔大腸炎、小腸炎、重度の下痢〕持続する下痢、腹痛、血便

〔1 型糖尿病〕口渇、吐き気、嘔吐、全身倦怠感、多尿

〔重篤な血液障害〕全身倦怠感、出血傾向、貧血症状、発熱、のどの痛み

〔劇症肝炎、肝不全、肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎〕全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、上腹部、特に右季肋部の痛み、かゆみ、出血傾向、意識障害

〔甲状腺機能障害〕全身倦怠感、むくみ、発汗、体重減少

〔下垂体機能障害〕体がだるい、意識の低下、血圧低下

〔神経障害〕まひ、下半身が動かない、手足のしびれ、手足の痛み

〔腎障害〕尿量減少、顔のむくみ、眼がはれぼったい、頭痛

〔副腎障害〕全身倦怠感、意識がうすれる、嘔吐、食欲不振、低血圧

〔脳炎〕発熱、頭痛、嘔吐

〔重度の皮膚障害〕全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、発熱

〔静脈血栓塞栓症〕むくみ、熱感、局所の痛み

〔インフュージョン・リアクション（薬剤注入に伴う反応）〕呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ、発熱

〔血球貪食症候群〕発熱、左上腹部の圧迫感や痛み、リンパ節のはれ

〔結核〕寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く

〔膵炎〕激しい上腹部の痛み、腰背部の痛み、発熱、吐き気、嘔吐、食欲不振

【ヤーボイ】

〔大腸炎、消化管穿孔、重度の下痢〕下痢、腹痛、血便

〔肝不全、肝機能障害〕全身倦怠感、食欲不振、黄疸

〔重度の皮膚障害〕発疹、皮膚のかゆみ、痛み

〔下垂体炎、下垂体機能低下症、甲状腺機能低下症、副腎機能不全〕頭痛、全身倦怠感、視野欠損

〔末梢神経障害〕手足のしびれ、痛み、感覚鈍麻、運動障害

〔腎障害〕尿量減少、顔のむくみ、眼がはれぼったい、頭痛

〔間質性肺疾患〕発熱、から咳、呼吸困難

〔筋炎〕筋力低下、筋肉の痛み、発熱

〔心筋炎〕努力性呼吸、息切れ、動悸、発熱、吐き気、嘔吐、全身倦怠感

〔インフュージョン・リアクション〕寒気、めまい、呼吸困難

◎上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。